

参考資料 1

平成 28 年度 光化学オキシダント調査検討会開催要綱

1. 検討会の目的

環境省で実施している「光化学オキシダント調査検討会（以下、「検討会」という。）」において、平成 25 年度に光化学オキシダントの環境改善効果を適切に示すための指標（日最高 8 時間平均値の年間 99 パーセンタイル値の 3 年平均値）が示された。その指標等により、過去の光化学オキシダント濃度を解析した結果、長期トレンドとしては、越境大気汚染の増加、前駆物質排出量の減少、NO タイトレーション効果の低下が、光化学オキシダント濃度に影響を及ぼす主な要因であることが示唆された。

本検討会は、その 3 つの要因について、シミュレーションを用いて定量的に解析することで光化学オキシダント濃度への影響を調査し、これまでの対策の効果の検証および今後の対策に資する検討を実施するものである。

2. 検討会の運営

(1) 構成及び運営

- ① 検討会は別紙 1 の学識経験者等により構成する。
- ② 検討会には座長を置く。環境省担当官と相談の上、座長は事務局の指名により定める。座長は会議の議事運営を行う。座長が検討会に出席できない場合は、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行することができる。
- ③ 検討会の事務局を一般財団法人日本気象協会に置く。

(2) 議事等の公開

- ① 検討会の議事及び配布資料は、原則として公開する。ただし、公開することにより公正かつ中立的な審議に著しい支障を及ぼすおそれのある場合又は特定の者に不当な利益若しくは不利益をもたらすおそれのある場合は、座長はその理由を明らかにした上で、検討会の議事又は配布資料を非公開とすることができます。
- ② 公開した検討会の議事要旨は、検討会終了後に作成し、公開する。

(3) その他

座長は、上記に規定するもののほか、検討会の運営に関し必要な事項を定めることができるものとする。

3. 検討事項

- (1) シミュレーションを用いた国内の光化学オキシダント濃度に影響を与えると推測された 3 要因の寄与について
- (2) NOx および VOC 排出量の削減効果の検討
- (3) 検討会報告書のとりまとめについて
- (4) その他、検討会が必要と認める事項

(別紙1)

光化学オキシダント調査検討会委員名簿

氏名	所属	職名
秋元 肇	国立研究開発法人 国立環境研究所 地域環境研究センター	フェロー
板野 泰之	大阪市立環境科学研究所 調査研究課	主任
井上 和也	国立研究開発法人 産業技術総合研究所安全科学研究部門 環境暴露モデリンググループ	主任研究員
指宿 喬嗣	社団法人 産業環境管理協会	常務理事
浦野 紘平	横浜国立大学	名誉教授
大原 利眞	国立研究開発法人 国立環境研究所 企画部	フェロー
金谷 有剛	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 地球環境変動領域 物質循環研究プログラム 大気組成研究チーム	チームリーダー
吉関 恵一	東燃ゼネラル石油（株） 中央研究所 戦略企画・調査部	部長
坂本 和彦	アジア大気汚染研究センター	所長
紫竹 益吉	一般社団法人 日本化学工業協会 環境安全部	部長
星 純也	公益財団法人 東京都環境公社 東京都環境科学研究所 分析研究科	主任研究員
向井 人史	独立行政法人 国立環境研究所 地球環境研究センター	センター長
米原 洋一	一般社団法人 日本塗料工業会	専務理事
若松 伸司	愛媛大学 農学部	名誉教授

(五十音順 敬称略)